

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 1 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470700356		
法人名	有限会社 いのくち		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	竹原市福田町1300-1 電話 0846-24-1287		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470700356&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年1月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

長年培ってこられた「生きるための力」が今どの程度なのかを知り、一人ひとりの生活機能を把握して存分に発揮してもらい、自分の意志で行動し達成感や満足感を抱きながら暮らしてもらうことを支援しています。特に食事は自分たちが食べたいものを献立に取り入れ、一緒に調理して同じテーブルを囲んで楽しく食事することを大切にしています。食事作りは1日の大切な活動の一つになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームに入居されている方たちは、自分で出来る能力を持ちながら発揮できない状況であるが、隠れた能力を発揮してもらうように職員が手助けをしている。ここでは、毎回の食事は入居者が献立を決め、買い物や食事作り、配ぜんや後片付けまで入居者が主導し行っている。また、畑の水やりや来訪者の接待など、入居者が自主的に行い、他の人に感謝されることに喜びを感じ生活している。地域に根ざしたホームであるべきとの考えから、近隣の保育園との交流や、地域の高齢者サロンに出かけたり、地域公民館での趣味の講習会に参加するなど、積極的に地域との交流を進めている。また、地域住民も野菜や花を届けたり、ホームの行事には手助けをしたりと非常に協力的である。また、入居者が、自分の思いを伝えることが出来ず、不穏な行動をする際には、職員は入居者に寄り添い、入居者の胸の内を理解するように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型を全員で理解し、地域で生活し続ける支援と地域との支え合いを重視して理念を大切にしている。	事業所としての運営理念と運営方針を定めており、新人研修の際には、ホーム長が説明し、また職員勉強会では理念について職員全員で再確認している。	理念を共有し実践するために、事業所理念の下に年間の行動目標を設定し、職員全員で達成するように努力する必要性があります。目標達成度を評価し、自己点検するなか、次年度につなげていく取り組みが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	幼稚園、保育園、公民館の趣味の教室に積極的に参加している。地域のサロンに毎月参加して近隣に住んでいる高齢者とも話している。近隣に住む方から野菜の差し入れがある。ホームである行事にお礼も兼ねて呼びかけている。	保育園で収穫した野菜をホームに届けてもらったり、それに対し入居者は園児にプレゼントしたり、運動会に参加したりと交流している。地域の高齢者サロンに月に1回参加し、食事やカラオケを楽しんでいる。クリスマス会や餅つき等のホーム行事に地域住民が参加し一緒に楽しんでいる。近隣のどぶ掃除に入居者が参加し手伝っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座の講師として地域住民に正しい認知症の知識と理解の啓発をしている。人材いくせいの貢献で認知症研修の実習生を受け入れている。高校の授業「認知症高齢者の自立生活支援と介護」について講師として協力する。又生徒がゆかりの里に見学に来て交流する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	幅広く参加してもらい生活のありのままを伝え意見をもらっている。参考にして一つ一つみあげて行くようにしている。	運営推進会議には、市の担当者・家族、そして地域代表者は警察官や幼稚園園長など様々な経歴の方が参加し開催されている。その中で、警察官からは、高齢者の詐欺の被害など有意義な話を聞き、参考にしている。また、入居者と出会った時には、名前で声かけをしたいとの近隣住民の提案で、外出時に名札を付けるようにしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	月に一回相談員の訪問があり実情やケアサービスの取り組みを見てもらっている。利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携を深めている。	竹原市の委託事業である福祉相談員が毎月ホームを訪問した際には、ホームの状況を説明している。また、地域の社会福祉協議会の行事では、家族相談コーナーで、相談を担当し協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者が外出しそうな様子を予測して興味のあることを提供したり、どうしても出られたら止めるのではなく一緒について行ったり、安全に配慮して自由な暮らしを支えている。カギをかけずに自由な暮らしを支援している。掲示板にコンプライアンスルールを掲示して職員の共有を図っている。</p>	<p>職員は身体拘束しないケアについてよく理解し、職員同士で声かけをし、日々のケアで実践している。また、「ちょっと待って」「だめ」などの言葉による拘束を行わないよう努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>認知症の症状が重いために職員の疲労、ストレスが、利用者のケアに影響しないかを話し合い適切なケアだけにこだわらないで主治医と相談して薬の助けを借りることもしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見が必要なケースでは管理者が対応するため他の職員は理解していない。家族がいない等、単身の利用者がいるため職員に理解を深めていかなければいけない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は重要事項を丁寧に説明している。特に事業所のできることでできないことを明確に説明している。契約時事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲で説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族には訪問時、家族会等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに心がけている。出された意見、要望は話し合い、反映させている。</p>	<p>年に1回家族会を開催し、多数の家族が参加しているが、提言や要望は、あまり出されていない。家族が訪問された際には、要望を聞くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、勉強会で意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。日常の関わりの中から出てくるアイデアや気づきを運営に取り入れている。	業務内容の見直しや勤務時間の見直しについては、職員の提言を受け、改善している。また、すぐに解決できないことについても、経営者と相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	健康診断の実施等職員の健康を保つために年2回している。職員の資格取得に理解して実務者研修等積極的に受けている。職員の休憩は休憩室で休み、気分転換している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間行われる外部研修の情報を収集して、職員に受講できる計画をしている。新人職員には、最初1ヶ月間はマンツウマンでケア、利用者の関わり方について丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は市内に連絡会がありその中で研修を設け質の向上に励んでいる。関連の事業所と交流を持つことによりサービスの質の向上に努めている。今年度は近隣の事業者同士の交流勉強会を持つことができる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	時間をかけて傾聴し安心してもらう働きかけ、声掛けを心掛けている。事前面談で生活状態を把握するように努め、また、利用者によっては通所を利用してもらい、本人の求めていることや不安を理解する。サービスの利用について相談があった時は必ず本人に会って関係づくりに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスに繋げる対応をしている。 利用開始前に事業所に来てもらい体験して時間を過ごすなど、徐々に馴染んでもらう工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、利用者から教えてもらうという場面を作るように工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が本人の生活を共に支援している関係を築き、日々の様子、気づきの情報を伝え、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。 来訪時には本人と家族がゆっくり時間を過ごすことができるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活の延長線上の生活を続けるように、知人、友人、職場の同僚、同級生等会いに行ったり、来てもらったり、電話で話したり、食事に出掛けたり繋がりを継続している。	入居者の友人や元の職場の同僚が頻繁に訪問され、その際には職員は歓迎し、関係が継続するようにしている。また、お盆や正月にはなるべく家族と過ごして頂くようにしている。また、お墓参りに職員が同行し支援することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が力を出し合って、お互いの絆を深めて欲しいので、職員が調整役になったり、職員が食事介護をしているときに一緒に手伝ってもらったりしている。持っている力をうまく発揮してもらい、個性をうまく発揮してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他に入所、入院になっても経過を見守ったり、必要に応じてフォローしたり、ケアプランや支援状況を手渡している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心をはらい、把握しようと努めている。意思疎通が困難でも表情などから「私だったら」と自分に置き換えて真意を推し量っている。	不穏な行動や、楽しく過ごされている最中に突然気分が変わられた際には、ご本人の意向や真意が把握できないが、職員は入居者のそばに寄り添い胸の内を理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人が持っている能力を発揮しながら暮らしていくことを支援するためには、家族に本人の歴史を聞いている。本人のケアに生かすという目的をはっきり伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズム（生活習慣・1日の中でどのような体調の変化があるか）把握して、できる力・わかる力を発揮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>暮らしの場での計画は日替わりで対応が変わっていきます。申し送り、引き継ぎでその日その日のアイデアや職員が持っている工夫がプランニングになっています。一人ひとりの24時間の暮らしシートで把握している。</p>	<p>ケアプランから入居者ひとり一人の「24時間暮らしシート」を作成し、職員全員でケアを統一している。また、日々の入居者のケアについて、職員は良く観察し、気付いたことを持ち寄り、話し合いによりプランの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の実践を意識して関わったことの結果、気づきを個別に記入して職員全員が勤務開始前に確認をすることを徹底している。記録に基づき、見直しの話し合いを毎日している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>予定以外の通所、延長サービス等家族の状況に応じて対応している。行事（祭り、クリスマス会、）利用日でもなくても声をかけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>警察官、民生委員、近隣の方の力をかりて行事を盛り上げてもらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。医療に繋げる場合も家族に意向を聞いている。</p>	<p>入居時には、家族との話し合いによりかかりつけ医を決めている。また、ホームの主治医は、月に1-2回往診をし、入居者の健康状況を把握している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。母体が医院なので、直ちに報告し適切な指示をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージが大きいので速やかな退院に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴う意志確認書を作成し、その時々で事業所の対応力が変化することを意識しその時にできるケアについて話していく必要があることを認識する。	看取りは、できれば行いたいと考えているが、家族の希望があり、またホームの環境を整えば支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員全員で緊急時の対応について慌てずに適切な行動をとれるよう勉強会で院長より学んでいる。消防署の協力で救急手当や蘇生法の研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。	地域住民との間で、災害時には協力して頂ける体制ができている。今後は、地域の消防団の担当者に来て頂き、ホームの状況に見合った避難方法などをアドバイスして頂き、災害に備えたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄の失敗等、本人の気持ちを大切に考えて、さりげなく対応することは基本であるが普段馴れ合いになり、尊厳を無視した対応になっているときがあるので、常に徹底するように心がけていくことが大切。	入居者の尊厳を保つために、顔をきれいにしたり、服装を整えるなど、身だしなみに配慮している。上から目線の言葉使いをしないように、入居者一人ひとりの人権・権利を意識しながら、言葉使いには十分注意を払っている。また、本人の了解なしに居室に入らないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は、常に意識しているが、日々の密接な関係や馴染みの中で支援できているつもりになっていないか、常に話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応をしている。起床時間入浴時間等決まっていない。 行きたいところに外出したり個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	認知症になると身だしなみやおしゃれをしなくなるので、本人の好みや意向や持っている力に応じた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事への関心を高めるために献立や調理での音、臭い、できない人も味をきいたり等五感を刺激するようにしている。 調理、盛り付け、片づけ等を利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事することを大切にしている。	毎回の食事は、入居者の話し合いで献立を決め、必要な物を買って物に行ったり、食事作りから配ぜんや後片付けまで職員と一緒にやっている。また、入居者の好物である刺身も出すようにしたり、時には外食に行き楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一日全体を通じた食事量・バランス・水分量の確認をして、利用者一人ひとりが1日の栄養量、水分量に達しているか職員皆が常に意識して関わるようにしている。 栄養士のアドバイスをもらったり、献立のレシピを教えてもらう機会がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの重要性を職員皆理解しているので、食後のうがい、手入れを1日3回支援している。 歯科衛生士により口腔内の掃除をしてもらい歯科に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツを使用しないでトイレの排泄を目指している。トイレでの排泄を大切にし、本人に合ったパットを検討している。 排泄チェック表を使用し、尿意の訴えがない時も時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄する。	トイレで排泄することが大事と考え、紙おむつやパットをしている方でも、トイレに座ってもらうようにしている。一人一人の排泄パターンを把握し、パットの使用を減らす努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防に向けて繊維の食事を考えたり、腸の動きをよくするため、散歩、室内も動き体を動かす大切さを常に意識するようにしている。 水分補給は1日1500cc以上を目標にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日を決めていない。本人の意向に沿った入浴の支援をしている。就寝前に入る習慣の方は希望に合わせている。 入浴を拒む人は言葉かけ対応の工夫をしてチームプレイによって入浴支援している。	入居者の希望を優先し、入浴時間を決めて入浴している。希望があれば、夜間に入浴することも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えて夜の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが服用する薬の内容を把握し、漫然と服用するのではなく状況の変化を把握し医師に伝えている。薬の処方や容量が変更されるといつもより詳細に観察をして医師と連絡をとる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	長年培ってきた「生きるための力」が今どの程度なのかを知り、存分に発揮できるように潜在している記憶、できる力を最大限生かせる場面を作り感謝の言葉を伝える。楽しんで役割をはたしているように見えても職員がプログラムしてさせているだけになっていることがある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	習慣や楽しみごとに合わせてお弁当を持って戸外に出掛けている。12月、イルミネーションを見学に行く人もいる。短時間でも外に出て、五感の刺激を得られるチャンスと捉えている。	食事の買い出し、入居者の買い物、散歩は日常的に行っている。幼稚園の行事参加の際には歩いて行くなど、出来るだけ歩くようにしている。また、おにぎりを持って近くの公園まで気晴らしによく出かけたり、新年には、初詣にも出かけている。外出を通じて、地域の皆様との交流が図れるよう機会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の力に応じてお金を所持してもらっている。好きな時に買い物に行っている。買い物に行き、本人が直接支払うことを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り、お花を活けたり自分の家のように自由に活かしてもらっている。居心地よく過ごせるように空調の温度、喚起には気を付けている。	換気や室温調整には十分気を付け、入居者の健康管理に努めている。壁には行事の写真や入居者の作品を掲示し、居心地よく過ごせるように配慮している。また、近所の方が、花を届けて下さった際には、入居者が花を選んで形を整え、室内に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関やフロアーにソファをおき、居心地の良い空間を作っている。中庭にも椅子とテーブルを置き、気の合ったもの同士でおやつの時間等で使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具、ベットは今まで使っていた思い出のものを持ち込んでもらっていますが、殆どの方が新しい寝具を持ち込まれている。机やいすを持ち込み、日常使用して居心地良く過ごしている方もおります。	入居時には、今まで使用した家具を持って来られる方は少ないが、個人の趣味の習字道具を持ってきたり、習字の作品などを自分の部屋に飾るなど、居心地の良い空間を作るようにしている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身体状況に合わせ、分かる力を見極め、必要な配置にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームゆかりの里

作成日 平成 24年 2月 16 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		年間行事目標を設定して事業所内外の研修を充実する。	毎月課題を決めて実行し、知識と技術を取得する。	2か月後、目標達成度を評価・見直しをして点検していく。	2か月
2		職員が研修を受ける機会は確保しているが、その後成果を現場に活かすところまで至っていない。	職員ひとり一人が自分の力を把握し、今の現状に満足することなく向上できるように努める。	勉強会実施→評価→見直し→実行を繰り返す。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。